

彙 報

会 員 消 息

- 臼井二尚氏（京大文学部教授）は、棚瀬襄爾氏（同助教授）、本岡武氏（京大農学部助教授）と共に欧米および東南アジアにおける東南アジア研究の状況および東南アジアの現状を視察するため、3月21日米国に向かい、5月末欧洲に移って英・仏・蘭等を巡り、7月初旬ビルマに入り、更にタイ、ラオス、カンボジア、マラヤを経て9月12日帰国された。京大総長に提出された「東南アジア研究にかんする視察旅行の報告」はその成果を鳥瞰図的に凝縮されたもの。
- 岩本裕氏（東海大学教授）訳のインド古典説話集「カター・サリット・サーガラ」(4)は9月刊行（岩波文庫）、全四冊がこれにて完結。
- 京大印度・仏教学会のインド学試論集 No.2 は9月刊行。No.1（昨年12月）と No.2 とには小林信彦氏（京大大学院博士課程在学）、また No.2 には大地原豊氏（京大文学部助教授）の論文登載。
- 宮崎市定氏（京大文学部教授）は、ハーバート大学で講義のため10月14日羽田空港発渡米された。帰国は来年8月中旬の予定。
- 三笠宮殿下は日本オリエント学会会長として同学会第3回学術大会に臨席された。大会は11月11、12の両日、名古屋市南山大学で開催。初日は公開講演で、殿下のご挨拶につづいて関西学院大学栗野頼之祐教授の「アレクサンドロス大王と西歐的君主礼拝制の確立」および東京大学吉川逸治教授の「古代古典美術の伝統と仏教美術およびキリスト教美術との関係」なる二講演があり、第二日は「古代オリエントにおける王権の問題」なる共通テーマのもとに、中原与茂九郎（京大）、加藤一朗（関西大学）、岸本通夫（大阪市立大学）、三笠宮（東京女子大学）、佐藤進（東京教育大学）諸氏からそれぞれ、シュメール、エジプト、ヒッタイト、イスラエル、ペルシアにおける王権の問題について研究発表があり、そのあと神戸大学助教授弓削達氏の司会でシンポジオンが行なわれ盛会であった。
- 勝藤猛氏（京大人文学部研究所助手）は2年間にわたるアフガニスタン留学（カブール大学）を終え、11月初めに帰洛された。
- 内記良一氏（京大大学院修士課程）は1年半にわたるアラブ連合留学（カイロ大学）を終え、11月26日帰洛された。
- 恵谷俊之氏（京大大学院博士課程）は2年間にわたるインド留学（デーリ大学）を終え、12月7日帰洛された。

本誌執筆者紹介

No. 6（前号）

- | | |
|--------|--------------------|
| ○織田武雄氏 | 京都大学教授 |
| ○伊藤義教氏 | 京都大学講師（本誌編集部員） |
| ○岡崎正孝氏 | アジア経済研究所員（テヘラン留学中） |
| ○上岡弘二氏 | 京大大学院修士課程一回生 |

No. 7（本号）

- | | |
|--------|----------------|
| ○上野照夫氏 | 京都大学教授 |
| ○岸本通夫氏 | 大阪市立大学助教授 |
| ○吉川守氏 | 神戸外国語大学助手 |
| ○岩本裕氏 | 東海大学教授 |
| ○加賀谷寛氏 | 大阪外国語大学講師 |
| ○伊藤義教氏 | 京都大学講師（本誌編集部員） |
- （順位は掲載順による）